

毎川日中友好基金

●●●●●●●● SASAKAWA PEACE FOUNDATION

結果概要：コロナ禍が及ぼしたインパクトを推定する

園田 茂人（東京大学東洋文化研究所）

報告の流れ

1. はじめに

調査の実施概要と意図の説明

2. 交流実態の変化

コロナ禍の交流実態に及ぼした影響の概観

3. オンライン活動の拡がりが見えるもの

オンライン活動が拡がったことの持つ意味の解釈

4. 交流をどう評価するか

交流主体による評価をめぐる分析

5. おわりに

要約と議論



1. はじめに

*調査の目的

コロナ禍が日中交流に与えたインパクトを探り、日中交流を担う諸団体の実態を明らかにすることを目的とする

*調査概要

- (1) 調査手法：オンライン調査（調査依頼は郵送）
- (2) 調査対象団体・組織：中国と交流があると想定される全国の団体・組織
- (3) 発送数：計9,620件
- (4) 有効回答数：1,300サンプル（回収率13.5%）
うち、中国と交流がある団体・組織：655サンプル
- (5) 設問数：35問
- (6) 実施期間：2022年8月19日（金）～2022年9月30日（金）

2. 交流実態の変化

*交流実態の変化測定：(1)活動の頻度（Q5とQ6）、(2)活動の規模（Q7）、(3)交流内容の変化の有無（Q8）、及び(4)オンライン利用の有無（Q9）という4つの変数

*コロナによる活動の頻度の低下（**表1**）：停止（39%）、変化なし（36%）、頻度上昇（5%）、頻度低下（20%）

*内容の変化を経験した事例は6割弱。その多くは規模の縮小を伴っている。このように頻度だけでなく、規模も縮小せざるをえなかったケースが大多数（**表2**）。

表 1 活動頻度の変化

コロナ前 \ コロナ後	コロナ後							現在のコロナ禍では実施していない	合計
	月に1回以上	3か月に1回程度	半年に1回程度	年に1回程度	2～3年に1回程度	不定期（具体的な頻度は決めていない）	現在のコロナ禍では実施していない		
月に1回以上	2.2%	1.7%	0.3%	0.3%	0.2%	1.2%	0.3%	6.2%	
3か月に1回程度	0.2%	1.3%	1.7%	0.8%		0.5%	1.5%	6.1%	
半年に1回程度		0.3%	3.7%	4.4%	0.3%	2.0%	3.9%	14.6%	
年に1回程度	0.2%	0.3%	0.7%	8.6%	1.2%	4.7%	14.6%	30.3%	
2～3年に1回程度			0.2%	0.2%	0.8%	0.8%	1.5%	3.5%	
不定期（具体的な頻度は決めていない）	0.2%	0.2%	0.5%	1.0%	0.3%	19.3%	15.1%	36.6%	
コロナ禍前までは実施していない	0.3%		0.2%			0.2%	2.0%	2.7%	
合計	3.0%	3.9%	7.2%	15.3%	2.9%	28.7%	39.0%	100.0%	

(注) N=359 $\chi^2 < .001$

表2 コロナ禍による交流の規模と内容の変化

	コロナ禍前とは交流内容 を変えていない	コロナ禍前から交流 内容を変えた	合計
コロナ禍前よりも拡大した	0.8%	3.9%	4.7%
コロナ禍前と変わらない	14.2%	4.7%	18.9%
コロナ禍前よりも縮小した	27.0%	49.3%	76.3%
合計	42.1%	57.9%	100.0%

(注) N=359 $\chi^2 < .001$

3. オンライン活動の拡がりが見えるもの

*コロナ以前にオンライン活動を行っていたところは2割程度。コロナ禍でも対面での活動に拘った団体は13%強で、多くの団体がコロナを契機にオンラインでの活動を行うようになったことがわかる（表3）。

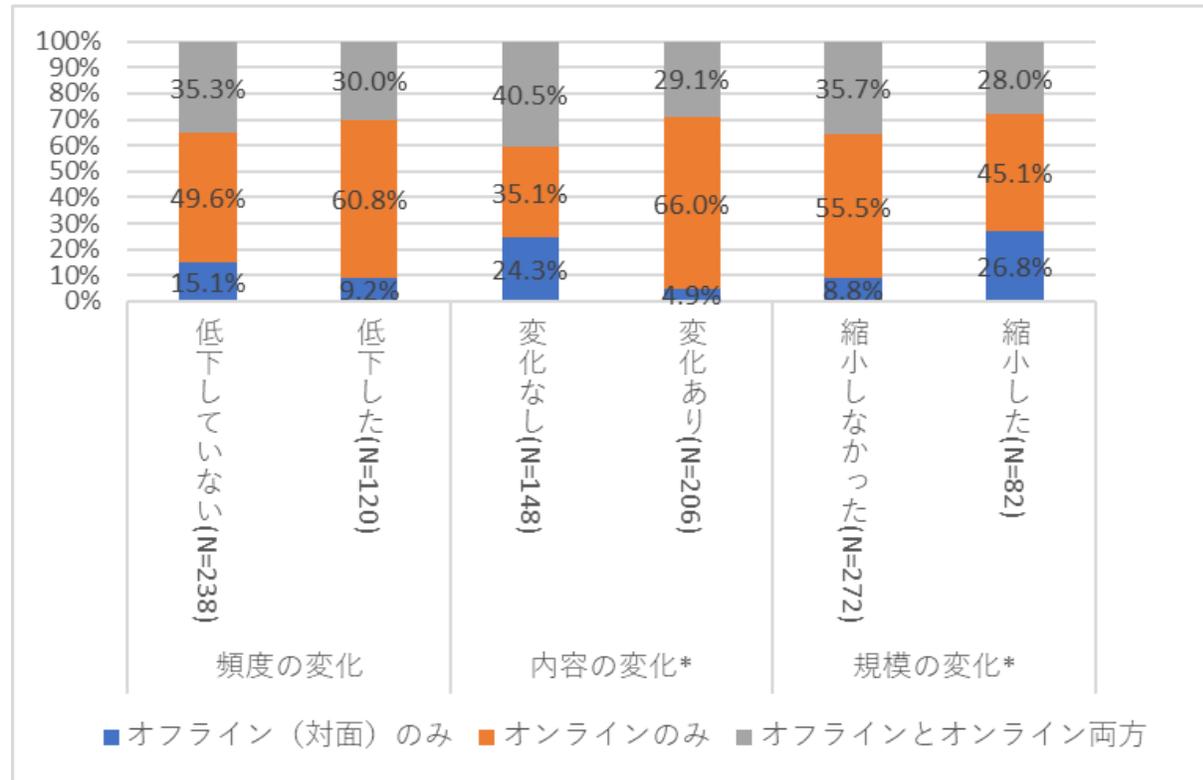
*オンライン活動の有無は活動の頻度とは関係ないが、内容や規模と関係している。オンライン活動によって内容は変化したものの、規模はさほど大きく低下することを妨げる効果があった（図1）。

表3 コロナ禍とオンラインでの活動

2019年以 前の交流	2020年以 降の交流	オフライン（対 面）のみ	オンラインのみ	オフラインとオ ンライン両方	合計
オフライン（対面）のみ		11.5%	40.9%	27.5%	79.8%
オンラインのみ		0.3%	3.1%	0.6%	3.9%
オフラインとオンライン両方		1.4%	9.2%	5.6%	16.2%
合計		13.2%	53.2%	33.6%	100.0%

(注) N=357 $\chi^2 < .001$

図1 コロナ禍下のオンラインの活動の有無と交流実態の変化との関連性



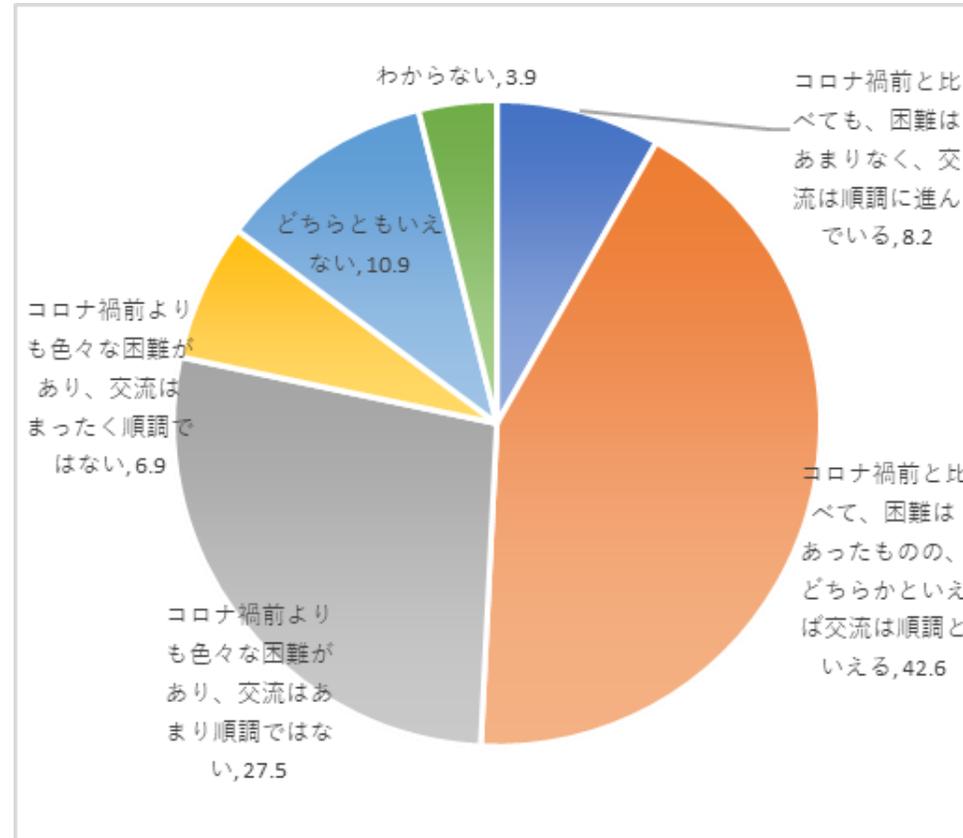
(注) N=358(頻度)/354 (内容と規模)。*は統計的に有意 ($\chi^2 < .001$) であることを示す

4. 交流をどう評価するか

*多くの団体はコロナ禍によってオンライン活動への転換や内容の変化を伴わざるを得なかったものの、現在の（まだコロナ禍が完全に収束していない）状況にあって、交流に対する評価は肯定的なものとなつたものと否定的なものとなつたものが半々となっている（**図2**）。

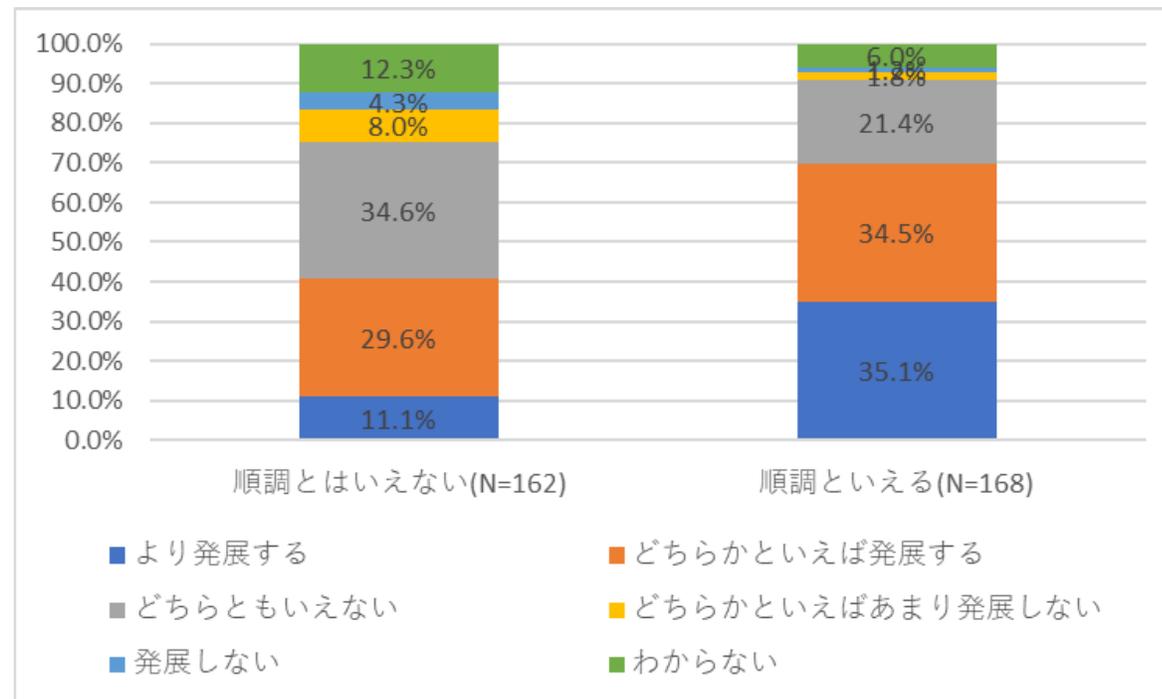
*こうした交流への評価は、将来への展望と結びついており、肯定的な評価をする団体にあっては、将来を楽観的に見る傾向が強い（**図3**）。

図2 現在の交流に対する評価（単位：％）



(注)N=331

図3 交流への評価別に見た 将来の交流の発展可能性への展望



(注) N=330 $\chi^2 < .001$

*交流全般への評価と現在の交流への評価では、一部、両者が結びついていない団体が見られる。現在の交流には厳しい評価をしつつも、交流全般への評価が高い団体が全体の25%近くいる（表4）。

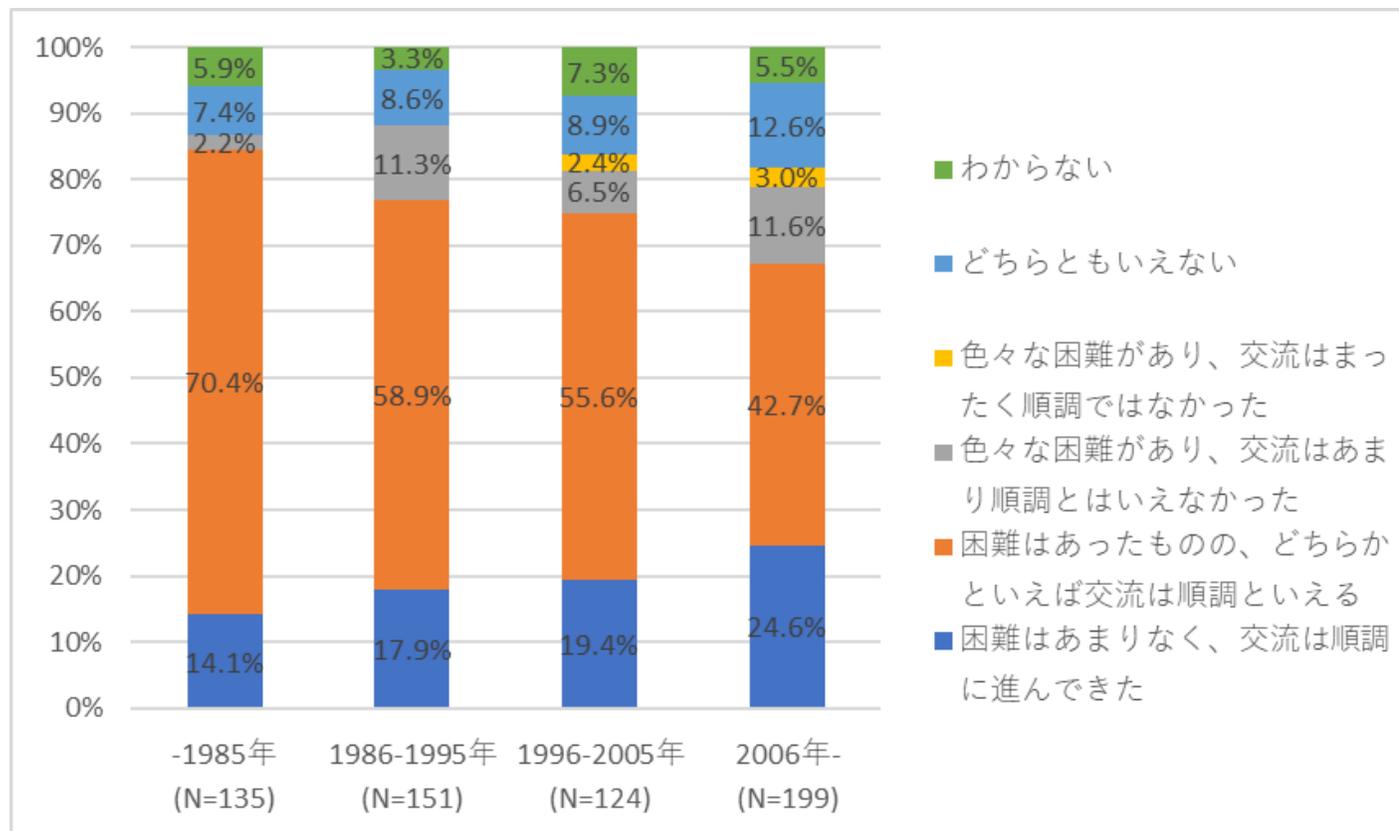
*総じて中国との交流を早い時期に始めた団体で、交流全般に対する評価が高くなる傾向にあり、これが上記のような現象を生み出す原因を生み出している（図4）。

表4 交流実績の評価と現在の交流への評価の関連性

		現在の日中交流の評価						合計
		コロナ禍前と比べても、困難はあまりなく、交流は順調に進んでいる	コロナ禍前と比べて、困難はあったものの、どちらかといえば交流は順調といえる	コロナ禍前よりも色々な困難があり、交流はあまり順調ではない	コロナ禍前よりも色々な困難があり、交流はまったく順調ではない	どちらともいえない	わからない	
日中交流実績の評価	困難はあまりなく、交流は順調に進んできた	4.8%	7.9%	3.9%	0.6%	1.8%	0.3%	19.3%
	困難はあったものの、どちらかといえば交流は順調といえる	3.0%	32.6%	19.0%	2.4%	3.3%	1.2%	61.6%
	色々な困難があり、交流はあまり順調とはいえなかった		1.2%	3.0%	2.1%	1.5%		7.9%
	色々な困難があり、交流はまったく順調ではなかった		0.3%		0.6%		0.3%	1.2%
	どちらともいえない		0.3%	1.2%	1.2%	3.9%	0.3%	6.9%
	わからない	0.3%	0.3%	0.3%		0.3%	1.8%	3.0%
合計		8.2%	42.6%	27.5%	6.9%	10.9%	3.9%	100.0%

(注) N=331 $\chi^2 < .001$

図4 交流開始時別に見た交流実績の評価の違い



(注) N = 609 $\chi^2 < .001$

5. おわりに

*コロナ禍がもたらした交流上の変化と、これへの評価をどう考えるか：団体によって異なる評価、異なる文脈の存在

*交流の領域ごとに考えてみることの大切さ